時代の先覚者――

溝渕両氏の写真を掲げる

《西野々公民館》

地元の生んだ時代の先覚者、溝渕進馬氏と溝渕静閑氏の功績を末永く顕彰しようと、二人の写真を西野々公民館に保存。九月三日、その除幕式が盛大に行われました。

これは、今年八月に発足した「西野々部落をよりよくする会」の事業の一環として実施したもので、地元の松木伝三さんが発案し、二人の経歴書も松木さんの自筆です。

除幕式には、溝渕進馬氏の五女八波光子さん、溝渕静閑氏のひ孫溝渕忠夫さんら関係者二十二人が出席。写真の完成を祝いました。

館長の福重健作さんは、「公民館を通じて、地区のみんなが、二人の先生の後へ続き、人のためになるような人間になってほしい」と、話していました。

溝渕進馬

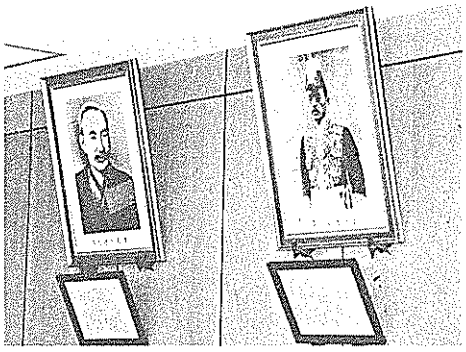
（一八七〇―一九三五）

【教育家】明治三年十二月二十五日、大埇西野々に生まれる。三高を経て明治二十八年東京帝国大学を卒業、二高教授などを歴任し三十二年八月から三年間ドイツ・フランスに留学、帰国後、東北帝大教授などを経て第四、第五、第三高等学校長を歴任した。昭和四年浜口内閣のとき中学校以来の同級の総理から文部大臣に要請されたが「教育者で終始したい」と断ったことは有名。昭和十年九月十一日没、六十六歳。

溝渕静閑

（一八四一―一九〇八）

【地方政治家】天保十二年二月十一日、大埇西野々に生まれる。戸長・村長となり、さらに高等小学校組合長、山田堰土功組合長等をつとめ、明治十二年県会議員に当選。明治四十一年六月二十九日没、六十八歳。



公民館に掲げられた両氏の写真

杉山局長から、表彰状を受け取る浜田さん

人権擁護委員として

○○○大臣表彰

浜田弥芳さん（前浜）

二十年以上の長い間、人権擁護委員として活躍されている、浜田弥芳さん（前浜）が、その功績により法務大臣表彰を受け十月五日、市長室で表彰状の伝達式が行われました。

浜田さんは、昭和三十六年人権擁護委員に委嘱され、以来今日まで、相談事件の処理や人権侵犯事件の調査、解決にあたり、さらに人権思想の普及高揚にも積極的に取り組んでこられました。

伝達式では、高知地方法務局の杉山昇局長が表彰状を手渡し、小笠原市長が祝福。浜田さんは「長い間務めさせてもらい、皆さんのおかげです。今年は、南国市が人権モデル地区として指定されており、人権擁護の啓発にいっそう努力していきます」と述べていました。

ご家庭で話し合って答えてください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・『第十六回市民賞』に、今年は個人〇人が選ばれました。

■しめきり・11月15日

■あて先・〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第154回当選者発表（敬称略）

（応募総数38通）

■答え・大陸

■当選者＝五人

田中宗助（前浜）
浜田美代（前浜）
門田幸俊（植田）
山本隆一（下末松）
杉本健（大埇）